

## 2018年度 大阪信愛女学院(保育園)学校自己評価

本年度、重点的に取り込む目標・計画

- ・私たちは、かけがえのない存在として受け入れられていることを知り、一人一人丁寧に関わる。
- ・「いのちあるもの」への優しさや「真実なもの」「美しいもの」を愛する感性を育てる。

下記のそれぞれの評価項目について、A～Dの評価のうちいずれか一つを答えて下さい。

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

				設 問	A	B	C	D
私学の独自性	1	建学の精神について	建学の精神が教職員・保護者・園児など保育園関係者などによく浸透している	3 23.1%	9 69.2%	1 7.7%	0 0.0%	
	2	愛校心について	在園生・卒園生・保護者は保育園に誇りや愛着を持っている	11 84.6%	2 15.4%	0 0.0%	0 0.0%	
	3	カトリックの教えに基づく教育	宗教に基づく教育に対する保護者・園児の理解がある	3 23.1%	10 76.9%	0 0.0%	0 0.0%	
	4	家庭との連携	保育園に対する保護者の期待・要望を把握している	4 30.8%	9 69.2%	0 0.0%	0 0.0%	
教育課程	5	保育計画	年間を通じた保育計画を領域別に立てている	10 83.3%	2 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	
教職員間の連携	6	教職員間の連携	教職員間で相互理解・信頼関係に基づいて保育活動が行われている	11 84.6%	2 15.4%	0 0.0%	0 0.0%	
	7	会議の有効性	会議の内容の精選と検討事項の事前伝達がおこなわれている	9 75.0%	2 16.7%	1 8.3%	0 0.0%	
財務関係	8	財務に関する意識と財務状況	学校の経営指標と財務状況について理解し予算・決算の状況について把握している	3 23.1%	6 46.2%	3 23.1%	1 7.7%	
情報公開	9	ホームページの活用状況	保育園のホームページで可能な範囲の情報公開をしている	9 69.2%	4 30.8%	0 0.0%	0 0.0%	
	10	保育公開状況	保護者へ保育を公開している	10 76.9%	3 23.1%	0 0.0%	0 0.0%	
危機管理	11	役割分担について	事故・事件・災害等に対処する役割分担や備蓄物資の管理場所を把握している	10 76.9%	3 23.1%	0 0.0%	0 0.0%	
	12	危機管理対応状況	危機管理マニュアル、警察・消防との連携、訓練などの安全対策は十分にとられている	11 91.7%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	
施設管理	13	施設整備について	保育環境として施設整備が整えられている	10 76.9%	2 15.4%	1 7.7%	0 0.0%	
広報活動	14	園見学・説明会	見学者や説明会参加者に園のことをよく理解してもらえるようにしている	10 76.9%	2 15.4%	1 7.7%	0 0.0%	

教育内容	保育内容	15	宗教教育	朝の祈り、帰りの祈り、食前の祈り等を通して感謝の心を育てている	10	3	0	0	76.9%	23.1%	0.0%	0.0%
		16	担当制保育	子ども一人ひとりの発達を把握して個々に応じた適正な援助が来ている	7	5	0	0	58.3%	41.7%	0.0%	0.0%
		17	特別支援保育	支援を必要とする子どもの情報共有と適切な援助が来ている	5	6	2	0	38.5%	46.2%	15.4%	0.0%
		18	家庭との連携	日々の保育日誌や送迎時の伝達などで、保護者とのコミュニケーションが十分に取れている	9	4	0	0	69.2%	30.8%	0.0%	0.0%
教員研修・資質向上	教職員研修	19	教職員の資質向上	保育内容について教職員間で内容を話し合い振り返る機会がある	9	4	0	0	69.2%	30.8%	0.0%	0.0%
		20	園内研修	カトリック教育・保育内容を充実するための園内研修体制がある	9	4	0	0	69.2%	30.8%	0.0%	0.0%
		21	初任者へのサポート	初任者等経験の少ない教員の研修体制がある	8	2	2	0	66.7%	16.7%	16.7%	0.0%
		22	園外研修	教職員が園外研修に参加できる体制が整っている。	9	4	0	0	69.2%	30.8%	0.0%	0.0%
特記すべき問題点		職員の経験年数や、個性、特技をお互いに認め合いそれを生かしあってより豊かな保育内容を考えていけるように話し合いの時間や研修会等で職員間の向上心を図る。より丁寧な関わりの必要な児に対する最善の関わり方を模索している。										
具体的改善方策		一人に負担がかからないように役割分担をしながら助け合う。お互いの気持ちを話し合える休憩時間になるように工夫し、十分にとれるように心掛ける。園内の緊密な連絡を忘れずにし、またメモノートに記し、お互いの連携を深めていく。学院特別支援クラス(Lルーム)の専門職員に指導を受け、人的・物的環境を整え始めた。										